

## 宮城のすばらしい食材を 全国に伝えるための 仕組みを生産者と共に 構築していきます。

仙台商工会議所1号議員  
株式会社スタイルスグループ  
代表取締役

さ さ き ひろし  
佐々木 浩史 氏

### プロフィール

昭和36年9月9日生まれ。石巻市出身。血液型B型  
東北学院大学経済学部を卒業後、番組制作やイベント企画の仕  
事を経て、29歳で独立。その後、異業種である飲食店プロデュー  
ス、経営などを手がけるようになる。そして平成23年、震災の発生を  
受けて「一般社団法人東北 食のカプロジェクト」の前身である「せん  
コンプロジェクト」を立ち上げ、その代表となる。そんな佐々木さん  
の好きな言葉は「地元のことは地元でやる」、そして「変わらないた  
めに、変わり続けていこう」。



### 生産者と手を組み、 地元商品を創造

― 去る6月、ご自身が理事長を務める「一般社団法人東北食のカプロジェクト」(以下、「食の力」)における取り組みが、内閣官房及び農林水産省が農産物や伝統、景観を生かした地域活性化の優良事例を選定する「ディスプレイ農山漁村の宝」に選ばれました。そこで、まず「食の力」の設立の経緯を教えてください。

出発点は、震災後の仙台を元気にしようとして企画した「せんコン」出会いと絆の仙台復興プロジェクトです。この街コン(街ぐるみで行われる大型の合コンイベント)を運営しようと集まった、飲食店経営者や飲食店のウェブサイトを運営する企業、レジなどの設備を扱う会社、広告代理店などのメンバーで立ち上げた有志の団体が「食の力」の基盤になりました。以来、まちを元気にすることはもとより、「食」に関わる人たちの結びつきを強くしていくことが活動してきました。

そして「東北食のカプロジェクト」に改名したのが昨年です。生産者と飲食店が直接取引を行うことで、情報を共有し、販路の拡大や地元商品のブランディングを目的としたプラットフォーム化への取り組みを行っています。

― 「ディスプレイ農山漁村の宝」に選ばれたポイントは、どの点にあるとお

考えですか。

昨今、「六次産業」という言葉をよく見聞きするようになりました。率直に言って、生産者さん主導による六次産業化はかなり厳しく、飲食店と手を組むのが一番の近道ではないかと私自身は思っているんです。六次産業化の要は「商品開発」ですから、最初の段階では朝採れの鮮度の高い食材を飲食店で提供するだけで価値があるので、次のステップでは、飲食店側の目線、料理人の目線などをプラスして新たな商品開発に結びつける。その仕組みを構築することが大切だと思います。今回、私たちが選定された一番の理由も、生産者と、例えば私たちのような飲食店が手を組むことで、「食」に関わる人たちが業種の壁を越えて、共に新しい仕組みや価値を生み出せるビジネスモデルを創出しようとしている点で、評価されたのではないかと考えています。

### 震災によって 社会的使命が明確に

― スタイルスグループとして、東京に第1号店となる居酒屋を出店されましたが、出店までの経緯や意気込みをお聞かせください。

震災前は、漠然と仙台よりも大きいエリアで店舗展開をしようと思っていました。それはマーケットが大きい分、競合他社が多いところに進出すること



「ディスカバー農山漁村の宝」選定証授与式と同時に行われた交流会の様子。塩釜の藻塩をまぶした牡蠣を安倍首相にふるまった。

が自分たちの成長につながるだろうと思っただけであり、ある意味、私たちが社会に果たす使命というものが明確ではなかったとも言えます。しかし、震災後は「宮城の食材を東京に、全国に伝えなければならぬ」と強く思うようになりました。また、仙台の店舗で、鮮度の高い食材を生産者の方でもつストーリーと共にお客さまに提供できるようなったことで、東京でもある程度の支持、評価を受けられるのではないかと思ったのも、東京出店を決めた要因になりました。

感じられます。こうしたところが気に入られ、この場所に店を構えることに決めました。また日本橋は「魚河岸発祥の地」。そこに宮城の魚を直結させたいという思いもありました。今後もこの店を起点にして、自転車や徒歩で回れる距離に、2号店、3号店と出店できればと考えています。

— 手応えのほどはいかがですか。

お客さまは地元・人形町界隈のビジネスマン、ビジネスウーマンが最も多く、次いで宮城にゆかりのあるお客さまなんです。宮城出身の方はもちろん、仕事で仙台に何年間か勤務していたという方々も結構多いのが特徴で、東京の方々にも、宮城の食材が受け入れられているという手応えは大いに感じています。

### 宮城の食材のよさを 知ることから始める

— 最後に仙台の食文化に期待することを聞かせてください。

宮城には素晴らしい食材が本当に多いと思います。これは宮城に限ったことではありませんが、そのすばらしさに気づかないことが多いですね。今回、東京に出店したことで、私たち自身もこのことがよく分かりました。まずは食に関わる人同士が、地元の食材に関する情報を共有し、身近な存在である飲食店がそれらの食材を提供する。そしてお客さまにおいしく食べていただく努力をすることが必要ではないかと思っています。

#### 【概要】

#### 株式会社スタイルスグループ

代表者名：佐々木 浩史

設立：平成10年3月6日

事業内容：「石巻港 津田鮮魚店」（国分町）を始め、仙台と東京に12店舗の居酒屋を展開。その他、商業施設・飲食店舗のプロデュース、各種店舗の設計・デザインなどを手がける。

所在地：仙台市青葉区一番町2-8-18  
仙台中央ビル9階

TEL.022(738)8835(代)

ホームページ：http://www.styles-group.com

# 街

やさしい気持で暮らせるように……。

たくさんの方が集まり、働き、笑い、泣き、そして暮らしてゆく空間、『街』…。そこで人々が明るく、健康に、そして何よりやさしい気持で暮らせるように、快適な都市環境をつくって行かなくては…。私たちはそう考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす  
**AOBA 青葉環境保全**

本社／仙台市若林区蒲町19-1

電話(022)286-3161(代)